

# 収入向上・女性の自立

## 技術は身を助ける トゥヤン村に新グループ結成！

トゥヤン村に以前あった女性グループは、現在活動停止中です。PIHS のコミュニティヘルスワーカー・ダンさんが、村には他にも困っている女性たちはたくさんいる！と紹介して下さり、訪問してきました。この女性たちはロンブロンという植物の葉を染めて、バニグと呼ばれる写真のようなバッグやマット、バスケットを編んでいます。8 畳ほどの大きさのマットは製作に 2 ケ月かかるそうです。

中心の女性サドリアさんから「バイヤーはひとりしかなくて、編み手は個々にその女性と取引している。安く買いたたかれており、染色剤など材料を購入するため前借りをしなければならない。製品をマニラなどで幾らで販売しているかも教えてもらえない。組合を作って材料を共同購入してコスト減を図り、値上げ交渉ができるようになりたい」とダンさんは相談を



されたそう。PIHS は保健衛生セミナーを通じて女性が自分と家族の健康を考え、自立をはかる NGO です。今後ヘルス

セミナーや女性の人権セミナーなどを組み合わせながら、2 ページの記事のティナガカン村組合のように、バニグを生計手段とするグループとして組織し、支援していくことがその場で決定されました。

次に 16 名の女性たちは「組合に名前を付けよう！」となりました。無難な名前が挙がるなか、「私たちはムスリム女性とイスラムに帰依したビラーン女性からなっている。Muslim と B' laan をくっつけて『MULAN』はどう？」というアイデアが出されました。なんて素敵な造語でしょう！皆も賛同し、MULAN Women's Association (ムラン女性組合) に決定しました。その後議長、副議長、事務局、広報担当を互選し、今後の活動計画を話し合いました。年齢層は幅広く、なかには自分の名前も書けない女性もいましたが、編む技術は素晴らしいものです。これからの活動が楽しみです。(九島)

## COWHED 組合員の女性

リゾート地であるレイクセブは、夏休みの 3~5 月は土産物屋の書き入れ時。COWHED の「織りの家」も例外ではありません。店頭に並べる製品が少なくなったかと思うと、ティナラク織、刺繍製品、竹細工、ビーズ製品などを持ち込む組合員で、店内はいつも賑わっています。そんななか、刺繍を行う女性が多いラムラハック村を訪問しました。

写真はトゥヤさん(34 才)。農民の夫と 6 人の子どもがいます。生まれたばかりの赤ちゃんは手刺繍をほどこした布にくるまれ抱かれています。子育てをしながら伝統工芸品を製作する日々を過ごしています。



## モデル農場成功でふくらむ収入向上の夢

プランテーション企業と農地賃貸し契約を結ぶ住民が増えている現状打開のため、代替収入源としてティボリ町スフとフィタックで始めた高原野菜モデル農場(写真)。すでにカブの収穫が始まりました。トマト、モンゴロ豆、カボチャも植えています。

このモデル農場と有機農法研修は当会の農村開発予算を充当しましたが、拡大する近隣地区からの要請に応えるには、今後始業資金や研修費などを助成金申請で対応する必要があるでしょう。

プランテーションだけでなく山の住民には鉱山会社からも誘いの手が伸びていて、今年 22 日には Earth Day と銘打ってアトモロック、ミアソン、サムラング地区で露天掘り試掘反対の抗議行動が予定されています。大資本の開発攻勢にノーというためにも、今回の高原野菜モデル農場の成功で代替収入源の事例を示せたのはよかったですと思います。

